

平成29年度 自己評価

～自己評価をして気付いたこと(自分の保育の振り返り)～

第一章 総則(項目番号001～012)

- * 保育指針を読んではいくが、正しく理解できているか不安がある。
- * 説明することに対して自信がない。理解しているつもりでも相手に説明する機会がないと自信が持てない。
- * 保育指針について理解があいまいだった。見ないと説明できないので、自分なりによく読んで(読み返すなど意識して)理解を深める必要がある。
- * 保育の「ねらい」や「内容」について見ながらならわかりやすいよう説明できるが、自分の頭の中だけでは難しい
- * 人権に配慮した保育を心掛けてはいくが、子どもにとってではなく、時間に追われて行動してしまう事がある。
- * 指針の改定に伴い、変わったところもあるが、根本的なことを意識しながら日々の保育や保育計画に努めていきたい。
- * 保育指針に基づいて保育をし、他者への説明もしっかり出来るようにしたい。

子どもの発達(項目番号013～027)

- * 子どもが興味や関心を示し、自発的に関わられるような環境への配慮を意識しているが、不十分で改善点も多く、園全体で取り組んでいく必要がある。
- * 保育園での生活は今後の発達や土台としてとても大切な時期なので、子どもと向き合い、一人ひとりに合った保育が出来るよう心掛けたい。
- * 一人ひとりの子どもの様子を見ながら援助すべきことは何か、職員間で話す機会を設け関わる事だ出来た。
- * 個々の発達、成長を考え、様々な力が身に付くよう保育を進めた。また、信頼関係が築けるよう環境作り、雰囲気作りにも努めた。
- * 子どもの発達は理解しているが、発達に合わせた環境設定や、遊びの構成が行われているか自信のない部分もある。
- * 発達の連続性において、一人ひとりの意識も大切だが、年齢や発達に応じた保育をすることや、前年度の担任からのやってきたこと、出来る事をきちんと引き継いでいくことが重要ではないかと感じた。
- * 保育士の感性や思いが子どもに伝わるため、豊かな感性を育てていくためには保育士自身が感性豊かにならなければならない。個々の発達について理解し、声を掛けていたが、全体での呼びかけなどで行き届かなかったり、言葉かけのレパートリーの少なさを感じた。

保育の内容

1-a ねらい・内容(1)養護(項目番号034～050)

- * 「ちょっと待ってて」の言葉を多く使ってしまう。また、泣かせたままにしてしまう事が多かった。
- * 「待ってて」「あとで」はあまり使わない様に園内研修で確認し合ったが、時と場合によっては必要になるので、しっかり説明して同意をもらい、その後ゆっくりと対応することを実践する。
- * 気を付けていても「だめ」など、制止する言葉を使ってしまう事があった。
- * 「待ってて」「早くしましょう」など集団保育の中で行ってしまいがちなので、意識することが大切だと改めて感じた。(ゆったり関わる様にならなくてとは反省した。)
- * 「早く」ではなく、自分から次の事をやりたくなるような言葉かけや伝え方など、対応に気を付けていきたい。
- * 月間指導計画を立てる際、ねらいや内容を子どもたちの成長過程を含め考えてできた。
- * 子どもが落ち着ける空間を作ってあげていたか疑問になってしまう。
- * 衛生面や健康面について毎日の生活の中でしっかり意識して取り組み、職員同士で確認し合う事が大切だと感じた。
- * 自分が主体となること(声掛けや健康チェックなど)はできていたと思うが、子どもが主体となること(休息できるスペースなど)は子どもが望む対応ができていたか自信がない。
- * 養護と教育が一体となった保育は理解しているが、実践面では、教育に対して思いが強くなってしまっている事があるので、強制的にならないよう心掛けていきたい。

1-b ねらい・内容(2)-1)健康(項目番号051~063)

- * 手洗いの方法について毎回伝えたり、一緒に行ったりしたが、しっかり習慣付ける事ができなかった。(乳児)
- * 手洗い・うがいについて日頃から声を掛けていたので、子どもたちも自ら行う事ができていた。しかし毎回の確認ができていなかったため、声かけだけでなく、確認も怠ることなくやっていきたい。(幼児)
- * 視聴覚教材の活用があまりできなかった。
- * 子どもの健康においては、一人ひとりの状態を常に把握しているよう努めている。
- * 自身の体を大切に作る気持ちが育つための機会が取れていなかった。
- * 遊びや活動の時に一緒に体を動かしているがもっと率先して取り組むよう心掛けて行きたい。
- * 天気の良い日は散歩に行き、歩く事で体を鍛え、その季節の自然に触れ、外部の物から得る言葉の刺激だったり、すれ違う方と挨拶を交わすことで社会性が身に付いたり、たくさんのことを学ぶ事ができた。
- * 園での日中の活動もちろん大切だが、健康な生活リズムを身につけるには、家庭でも協力してもらい過ごせるとなお良いのだと思う。
- * 怪我防止のため、事前に危険な物を排除してしまうが、子ども自身で危険なことがわかったり、自分がどこまでできるのか判断できるように援助していきたい。

1-c ねらい・内容(2)-2)人間関係(項目番号064~080)

- * けんかやトラブルが起きるとすぐに止めてしまう事が多い。見守り方や適切な言葉かけ、援助の仕方が難しい。
- * 子どもにとって成長に不可欠である1つの項目として理解し配慮した保育を行っているが、高齢者や地域の人の関わりがどうしても少なくなってしまう。
- * 散歩などで地域の方々に挨拶をしたりする機会はあったが、交流の場は作る事ができなかった。
- * 子ども同士で「大丈夫？」など相手を心配したり、泣いている子に声を掛けるなど思いやりを持てる子が増えてきた。
- * 友達との関わりの中でトラブルがあっても自分たちで解決し、仲を深められるよう援助ができた。
- * 子ども同士で関わる事が徐々に増え、友だちへの声のかけ方、トラブルの際の相手の気持ちなど知らせるようにした。小さいながらも理解はしているのでその都度しっかり伝えていく事が大切だと感じた。
- * 当番活動を通して任された喜びや達成感を味わえる保育が出来た。
- * 当番活動は特別感を感じられるだけでなく、人の役に立つ喜びを味わえる大切な活動になっていることが良く分かった。楽しみながらやれることが多いので、こういった活動をもっと取り入れていきたい。
- * 子どもの興味や関心を引き出し「やってみたい」の気持ちが持てる保育ができた。
- * 子ども同士のぶつかり合いも大切な経験なので危険の無いよう見守っていたが、フォローするタイミングに迷う事があった。
- * 良い事や悪い事に気付かせるよう声かけなど配慮するが、自分で考えて行動できるところまではできなかった。
- * 自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ機会として、国際交流に全園児で参加しているが、毎月2回来園されるロブ先生との関わりをどのクラスでも大切にしていきたい。
- * 焦った保育をするのではなく心に余裕を持ち、子ども同士の関わりを大切に、人間関係を築けるようにしていきたい

1-d ねらい・内容(2)-3)環境(項目番号081~096)

- * 数字や自然を取り入れた保育ができた。
- * 様々な環境(自然、文字、数字、標識、社会など)を子どもたちが無理なく主体的に関わったり、学んだりできる援助をしていきたいが、やらされていただけになっていないか心配になる。
- * 動植物の世話をすることがなく、生命の尊さに気付かせることは難しかったが、身近な虫などを通して話をした。
- * 散歩で見つけた木の実や葉を園に持ち帰るが、制作に使わないままになってしまったり、拾ったままで終わってしまうものがあって、もっと製作に取り入れたり、遊びに活用していきたい。
- * 散歩を通して働く人などへの関心を引き出せるような声かけをしていけばよかった。
- * 散歩中、安全に重点を置きすぎて標識などに興味を持つ機会を作れなかった。安全に散歩すると共に周りの物にも目を向け楽しく行けるよう努めたい。
- * 子どもと自然の触れ合いを大切にする中で園外活動での安全への配慮が保育士の役割であり、のびのびと活動できるよう保育士が分担して確認したり、見守ることが必要だと思った。
- * 植物を育て興味の持てる保育を取り入れたい。
- * 栽培や飼育など日々の保育に追われ、なかなか保育の中に取り入れる事ができなかったが、他クラスの栽培物の生長を見たり、戸外活動で生き物を見つけた時に観察したりした。

- *「なんでだろう」の疑問に対して一緒に考えられるよう心掛けていたが、すぐに答えが出てしまう事が多かった
ので、もっと配慮していきたい。
- *公共機関の利用や、地域で働いている人たちに出会う機会を作る努力や、意識が低かったことに気付いた。
- *様々な国の旗を作るなど、いろんな国に興味や関心が持てるような働きかけが不足していたので、園にあるパ
ズルやカードなどの活用を心掛けていきたい。

1-e ねらい・内容(2) - 4) 言葉(項目番号097~115)

- *子どもが自分の思ったこと、感じた事を伝えると言うことは、乳児の時から優しく声を掛けてもらったり、丁寧に
聞いてもらう経験の積み重ねが大切と言うことが改めた分かった。この経験を通し、幼児期では、個から集団へ
自分の気持ちを伝える機会を増やしていきたい。
- *発表する機会を設け、伝える楽しさを味わえたと思う。
- *園であまり発言しない子が積極的に発言できる機会を作っていきたい。
- *子どもが思ったことを発表する機会を作っておらず、表現することが少なかったと感じた。帰りの会など1日1,2人
楽しかったことを自分の言葉で発表する機会を作っていきたい。
- *言葉の使い方、大きさに気を付けているが、自分の気持ちによって大きくなってしまったりすることがあった。
- *子どもは保育士を見本とし真似するので丁寧な口調や言葉選びを心掛けていたが、余裕のない時や感情的に
なってしまう時、叱り口調になってしまった。
- *叱る時、注意するときでも冷静に言葉を選んで発していきたい。
- *子どもへの言葉かけにおいて美しい言葉かけが常に100%出来ているか不安に思った。言葉を習得していく上で
私たちの言葉がどれだけ影響するか考え行動するべきだと改めて気付いた。今後も、意識していくことで正しく
美しい言葉使いにつながっていくと考え、努力していきたい。
- *0歳児では、特に声のトーンやわかりやすい言葉を使って話すよう心掛けた。また、赤ちゃん言葉だけにならない
よう気を付けた。(「マンマだよ」の後に「ご飯食べようね」など正しい言葉を再度いうようにした。)
- *子どもが話している時に目線を合わせしっかり聞いていない事があったので気をつけたい。
- *挨拶が身に付くよう、保育者が元氣よく子どもに挨拶するよう努めた。

1-f ねらい・内容(2) - 5) 表現(項目番号116~128)

- *様々な楽器を使う機会を作れなかった。
- *自由画を保育の中に取り入れていたが、自由遊びの時や生活の中で自由に描ける準備を今後やっていきたい。
- *想像力やイメージを膨らませるような取り組みをしてきたが、十分に出来ていたかわからない。
- *ハサミなどをいつでも使える配置はしていなかった。
- *0歳児なりの表現活動を行い、制作活動において様々な技法や素材を入れるよう心掛けたが、年齢により「いい
え」になる設問もいくつかあった。
- *表現するための材料や用具の置き場所を用意したが、使い方によってその都度工夫していく必要があると感じ
た。
- *表現することを楽しめるよう保育できたが、その反面、安全面を考えすぎて自由に作ったり、用具の取り出せる
配慮ができず、製作面の自由な表現が欠けており反省すべき点だと感じた。
- *様々な用具を常に置いておくことが難しい年齢ならば、日中の活動中に設置しておくなどの工夫が必要だった。
- *歌、楽器、劇遊びをしていくにあたって、苦手意識のある子がどうしたら楽しんで参加できるようになるか、「でき
ない」という子に対しどうやって自信を付けていけば良いか難しいと感じた。

1-g ねらい・内容(1)と(2)全保育内容・領域を通して(項目番号028~128)

- *日々の保育が養護を踏まえた5領域に添っているかを振り返る事が大切だとわかった。
- *環境構成の部分で不十分になり、それに付随して出来ているところとできなかったところに分かれてしまう。
- *毎月の指導計画案で育ってほしい内容を組み立てるが、それについての反省がなかなかできない。自分の保育
を振り返る時間を作っていきたい。
- *保育内容に関して、子どもの心や表現力などすべて環境によって大きく変化すると感じた。豊かな心を育てるに
は様々な体験をしたり、友だちとの関わりや日々の一つ一つの事が大事になる。成長の手助けになれるよう保育
者も工夫していかなければならない。
- *日常生活の中の一つ一つの事が、子どもたちにとって大切なことであることを常に頭に置きながら丁寧に関わ
ると共に、そのことが子どもの発達、成長にどのような影響を与えているかを自覚しながら保育をしていかな
ければならないと改めて思った。

- * 養護と教育が一体となって展開されることに留意しながら、一人ひとりの子どもに寄り添い、不足していた部分に配慮していきたい。
- * 子どもと一緒に楽しみながら活動できたが、5領域に添って内容を濃くしていきたい。
- * 子どもたちと共感し、一緒に思いを共有することや環境を整えていくことがとても大切だと感じた。
- * 乳児では特に、一緒に体を動かしたり遊ぶことで子どもたちが楽しさを体験できることが多いので、もっと体を動かして子どもが楽しめるようにしていきたい。

2 保育の環境(項目番号129~137)

- * 叱ったり、注意するとき大きな声になってしまうので気を付けていきたい。
- * 子どもに対する声の大きさやトーンへの配慮が足りず、不適切だったので気をつけたい。
- * 保育室内のコーナーがさらに工夫出来たらよかった。
- * 季節に合って掲示物はできたが、子どもの発達、成長に合わせた手作りおもちゃなどをもっと積極的に取り入れられたら良かった。
- * 飼育の取り組みでは、身近な昆虫など無理なく子どもたちと行っていきたい。
- * 自由に遊ぶ時間は作れていたが、コーナー遊びの充実が欠けていた。(うまくいかない)
- * 子どもの作品をすぐに飾ることで自分の作品を探し、みんなに見てもらうことで自信に繋がっていたように思う。部屋の雰囲気、季節感だけでなく、子どもの心の成長にもつながっていたと感じる。
- * 乳児クラスでも、1つの玩具に絞らず、コーナー遊びにより、その子の遊びの様子に変化が見られたり、好きな遊びに集中する姿を見る事ができた。また、どこに片づけるかや、みんなで片づけるなどの関わりも見られた。
- * 子どもの興味や関心があることの保育への取入れが難しい。
- * 高付のしやすい環境作りの仕方が難しい。

3 乳児保育(項目番号138~159)

- * 一人ひとり丁寧に関わりたいと心掛けているが、自分に余裕がないと強い口調になってしまう。
- * 過去に担当したが、今後担当する時も今回のチェックを心にとめて保育していく。
- * 眠る部屋、活動する部屋と分かれていることが理想だが、今の環境の中で工夫したり、子どもの様子で保育する事ができた。
- * 信頼関係がすぐに築けるよう、おむつ交換、授乳児など声をかける様にしていた。
- * 一人ひとりに応じた適切な援助を行うことをこれからも心掛けていきたい。
- * 離乳食においてもっと個々のペースを大切にしたいという気持ちが強かったが、周りの理解や協力も不可欠だと感じた。
- * 離乳食では、初めて食べる食品の確認など家庭、給食室、保育士の連携が大切だと感じた。

4 長時間保育(項目番号160~166)

- * 安心してくつろげる環境をつくり、ゆったり話をしたり、一緒に遊びながら今後も対応していきたい。
- * 異年齢児との関わりを経験する事ができ、個々の子どもの新たな姿が見られる良い機会となった。
- * 職員間での伝達が上手くできなかったことがあるので、伝達ミスが無いようにしたい。
- * 遅番時の様子は伝えられるが、他クラスの日中の様子がなかなか伝えられない。
- * 疲れや眠いなどの欲求で泣く事も増えるが、お迎えと重なったり、泣く子が多いと答えてあげる事が出来ない事があった。
- * 長時間保育を利用する人数が多く、バタバタしてしまう事もあるが、異年齢児の関わりや好きなことをしてくつろげる空間作りを大切にしながら、保護者への連絡もしっかりしていきたい。
- * 長時間保育の乳児が多く、お迎えが重なりとゆったりとした時間が作れない日もある。その中で常に気持ちにゆとりを持つことが重要だと思う。
- * お迎えを待つ間、子どもたちの気持ちが沈まない様、スキンシップを増やしたり、話をしたりと配慮することが出来た。

5 障害のある子どもの保育(項目番号167~177)

— 実地していない保育事業 —

6 子どもの人権(項目番号178~184)

- * 子どもの人権への配慮、一人ひとりを大切にすることへの具体的な取り組み方について知りたい。
- * 他国の子がクラス内にいないこともあり、国際や文化の違いに対する意識が薄かった。
- * 乳児クラスでは、男女を分ける発言や行動は見られなかったが、幼児クラスで子どもが無意識に性別で区別している様子が見られたら、訂正していく必要がある。互いに尊重し合える心を育てていきたい。
- * 男女を色で分けてしまう事もあり、園内研修で振り返りをしながら共通理解を図りたい。
- * 特別な何かではなく、日々の保育の中で相手の思いを伝えたり、思いに共感したりなど、お互いを認め合えるような取り組みをし、人権の配慮や互いを尊重する心を育てている。
- * 性別による活動の制限や発言は絶対しないように意識し、子どもが自由に選択できる雰囲気大切にしたい。
- * 子ども同士のトラブルもお互いの気持ちに気付けるようフォローをしっかりとしていきたい。

第二章 保育の計画及び評価

1-a 保育過程(項目番号185~189)

- * 保育概念、保育課程など正しく説明できるようにもう少し読み込みたい。
- * 園の保育理念など毎朝目を通し、いつでも言えるようにする必要がある。
- * 日々の保育(子どもとの関わり)が大切なのはもちろんだが、色々なことを考えてしっかりと計画を立て、なぜその様なことをするのか、実践に移す前に頭で考える事も大事だと思った。
- * 指針の改定により、保育課程から全体的な計画に変更することにより、個別だけでなく園内研修で職員同士が改めて内容について考え、理解することができた。(各年齢で育てたい事や大事にしたい事が明確になり、理解が深まった。)

1-b 指導計画の作成(項目番号190~207)

- * 月の指導計画を作成するが振り返りができていない事がある。
- * なるべく連続性をもてるように意識するが、忘れてしまう事もある。
- * 日誌など個人記録で、気になる子に対する記録が多く偏ってしまった。
- * 児童票の記入は、時間がたってしまうからの記憶では曖昧になってしまう事があるのでなるべく大きな変化などはその時に記録していくよう心掛けたい。
- * 日々の記録はその日のうちに書く事ができた。
- * 個人記録の作成について不十分だった。
- * 毎日に個人記録の作成は難しいが、毎日に近づけるよう時間の使い方を考えていきたい。
- * 援助の仕方を具体的には記入しておらず、簡素的であった。場合によっては月案にも細かく記入できるようにしていきたい。
- * どのようなことに留意して関わっていけば良いか考えながら計画を立て、季節の事象や行事なども考慮して立てる事ができた。
- * 乳児でも地域の自然や公共機関を利用して、保育に生かせるよう考えていきたい。

2 小学校との連携(項目番号208~218)

- * 小学校の先生と話す機会を多く持ちたい。小学校見学など連携を取っていききたい。日頃からの交流の場について考えたい。…保育園と小学校が繋がれる様に積極的に関連する研修や交流の場に足を運びたい。
- * 小学校に向けて学んでいきたいことは年長児だけでなく、小さいころからの積み重ねが大切だと言うことがわかった。卒園までにどのようなことを学んでいきたいのかを話し合っていくと共通した積み重ねの学びになると思った。
- * 小学校との連携について知らないことばかりだったが、運動会の見学など小学校の様子も見に行きたい。
- * 小学校の運動会や授業参観に参加できたが、先生と直接話をする機会がなく、学校での様子を聞く事が出来ず、残念だった。

3 保育の内容の自己評価(項目番号219~227)

- * 自分の保育を客観的に評価することは難しい。振り返りが不足していた。
- * 他者からの意見やアドバイスは受け入れ、自分の力になるようにしている。
- * 疑問に思った事やわからないことは積極的に聞き、気付きになったり、見直すきっかけになり、質問してよかったと感じる事がとても多かった。

- * 保育の振り返り、反省、改善をクラス会議として行う事や、職員会議で意見交換することも保育の質の向上につながると思う。(大切なこと。)
- * 自己評価を行い見直したり、同期、主任などに相談し、より良いものにしようと行動できた。
- * 自分の保育について意見を聞く機会が少ないと感じているが、その中で気づいたことについては自己評価に繋げている。
- * わからないことはうやむやにせず、きちんと確認を取ること、一人で決められないことは相談すること、指摘を受けた際は謙虚に受け止める事を心掛けた。
- * 日誌で毎週末に自己評価することによって反省したり、課題を見つけ次週につなげる事ができた。

第五章 健康及び安全

1 子どもの健康支援 2 環境及び衛生管理 3 安全管理(項目番号228~251)

- * 子どもの体調が悪くなった時に、医師自身と連絡を取る事はなかった。
- * 不審者対応訓練を行う事で、役割ややるべきことがわかってきたが、実際起こった場合、動けるか不安がある。
- * 遊具や室内など危険の無いよう気をつけたり、子どもに声を掛けたりしているが、マニュアルに沿っているか確認していきたい。(施設、設備の安全に関する点検マニュアルの確認。)**定期的に目を通す必要を感じる。
- * 玩具の消毒をせず片付けてしまったことがあった。しっかり衛生面の管理をしていきたい。
- * 子どもの体調に関する事は家庭とも連携を取り、不調を訴える事が難しい年齢だからこそ、変化に敏感に気づけるよう周囲とも協力して見守るようにした。
- * 子どもの健康を守っていくには、担任だけでなく共通理解をしていくことが安全管理に繋がっていく。職員同士のやり取りが大切だと感じた。
- * 湿度や温度の数値の確認を忘れてしまう事があった。
- * その日の天候や、園庭の様子に合わせ、遊びを柔軟に変化していくよう心掛けた。
- * 子どもの細やかな発達や、出生状況の把握について自信がない。
- * 怪我をしやすい場所や、ヒヤリハットの確認をする時間があると共通して気をつける事ができると感じた。

4 食育の推進(項目番号252~264)

- * 0歳児担当で栽培やクッキングなどの機会を設ける事ができなかったが、様々な野菜に触れたりするなどして、興味を持てるよう工夫すればよかった。
- * 栽培やクッキングを行い、食に興味を持てる保育ができた。
- * 好き嫌いで嫌がる子に、どのように援助していけば良いか難しいと感じる。
- * 苦手な物でも友達と楽しく食べる事により挑戦できたり、食べる事を楽しいと思える空間作りを心掛けていく。
- * 応援したり、穏やかに声を掛け続けても野菜を嫌がる子に対し、強い口調で食べるよう強制してしまったことがあり反省した。
- * 食べむらや好き嫌いが出てきた子も多い中で、できれば一口は食べてもらいたいという気持ちと、その子のペースに合わせなければという気持ちの葛藤があった。
- * 食物アレルギーの子どもに対して、職員間(クラス、給食室)の共通理解が必要だと改めて感じた。
- * 食物アレルギーがある子どもがいるとクッキングを制限されることもあるが、その中でできる事を行い、食の大切さ、美味しさを学べると良いと思う。
- * クッキングを行い、楽しく美味しく食べる工夫を増やしていきたい。
- * 体の中の仕組みなど視聴覚教材を使って説明する事が欠けていた。教材を使って分かりやすく、楽しく学べるよう活用していきたい。
- * テラスや中庭など使いやすい場所があるのに、活用する事ができていなかった。大人も BBQ など戸外での食事は楽しいものなので、せっかく身近にある環境を活用していきたい。
- * 一緒に食べる事を楽しんで食事ができマナーも伝えていけた。
- * 食べ物の働きについてあまり伝えられなかったので今後はしっかり伝えていきたい。

保護者に対する支援

1 保育園に入所している子どもの保護者に対する支援(項目番号265~276)

- * 個人面談で保護者とゆっくり話をする事ができた。また、園での様子を伝える事ができた。
- * 日々の会話や連絡ノートを通して、保護者が悩みや心配事を安心して話せるような関係を築いていきたい。
- * 送迎時に話ができていたが、支援が必要だったり、気にかけてほしい事はもう少しゆっくり話だ出来ると良いと感じた。

- * 保護者と会う機会は多くなかったが、主に連絡ノートを通して子育ての悩みだったり、成長のお手伝いが出来たと思う。
- * 個人面談を行う事で個別対応はできたが、保護者同士の懇談会の機会が設けられていない。保護者総会の後など、30分だけでも各クラスで行ってほしいと感じた。
- * 悩みや相談をしやすい雰囲気作りには気をつけられた。その悩みや相談に適切に対応できる力をもっと付けていきたい。
- * 送迎時の短い時間でも、言葉を交わす事により信頼関係を築く一歩に繋がると思うので、他クラスの保護者とも挨拶＋一言を大切にしたい。
- * 送迎時、保護者が急いでいて、体調や様子をしっかりと聞く事が出来ない事があった。
- * 園内で気になる行動が見られ始めた時、何気なく家庭での様子を聞きながら話に交えて様子を伝えたりと、保護者が重く受け止めすぎない伝え方を考えるよう努めた。
- * 保護者に対して園での様子をなるべく話をし、子どもの共通理解を図りながら保育をしているが、話せる時とそうでない時がある。
- * 迎えが祖父母でも出席帳を活用し伝える事を記入することにより、連絡を取る事ができた。
- * 保護者との話し方、トラブルが起きた時の伝え方が難しい。

2 地域における子育て支援 3 地域や関係機関との連携(項目番号277~286)

- * 地域の関係機関や子育て支援について知識・理解が欠けていたため、今後の課題にしていきたい。
- * 地域との関わりが少なく、散歩中にあいさつ程度になってしまった。
- * 地域に関わりにおいて、年長・年中児対象が多いが、他クラスでも散歩ですれ違う地域の方との関わりを大切に、良好な関係へとつなげていく。
- * 子どもと一緒に買い物に出かけたり、地域社会と触れ合える保育をした。
- * 子育て支援の担当や、地域の連絡会への参加により様子を知る事ができているので、その様子をしっかりと他の職員にも伝え、共有していくことが大切だと感じた。
- * 散歩や出勤時など、挨拶一つでも園に対しての印象が変わると思うので麻機保育園の職員であることをしっかりと自覚する。
- * 関係機関との連携を取り、情報交換などもできた。
- * 実習生の目標を確認し、声かけなどもできた。
- * 園外で保育士が挨拶することにより、子どもたちも真似して挨拶ができていた。保育士が見本になることは真似したり、覚える事に繋がり、大切なことだと思った。

第七章 職員の資質向上(項目番号287~300)

- * 社会で起きていることに目を向けたり、研修や情報収集をしっかりと行い、保育に関しての知識や技能の向上に努めていきたい。
- * 自分だけの考えだけでなく視野を広く持って、知識や技術の向上に努めていくことが自分の自信にもつながっていくと感じた。
- * 園内における自分の立場や役割を考えながら、他の職員との関係を築くよう心掛けた。相談された時に相手の立場になって声を掛けられること、相談してもらえよう雰囲気大切にしたい。
- * 利用者への保育に関する指導の発信をしたり、問いかけに応じられるようにしているが、努力不足だったと痛感した。
- * 職員同士、話をし保育を振り返るための時間を大切にするため、休憩を取ったり話をする機会を作っていきたい。
- * 日々の保育の中でわからなかったことや、失敗に対して、アドバイスや意見をもらい自分の保育をより良いものとしていきたい。
- * 研修には積極的に参加するようにしているが、特定の分野に絞られてしまう事が多い。色々な研修に参加していきたい。
- * 園外研修に参加し、園内研修でも自分なりの意見を伝えたりすることができた。

<チェックリスト全体を振り返って(「気づき」の大きかったもの、とくに印象深かったもの)>

(環境)

- * 午睡時に布団を敷く事で片づけたり、動かすことを考えてしまい保育室内の環境構成が上手く考えられない。

(食育・健康)

- * 参加した研修で、苦手だった野菜がどのように育ち、どの過程を通して給食としてお皿に盛られているか、野菜を育てる所から観察し、栽培、収穫した事により苦手な物を克服できたという事例があった。乳児クラスでは育てて収穫することは難しい場合もあるが、調理される前の野菜に触れたり、見たりする機会を増やしていきたい。
- * 家庭への健康支援の啓発について、伝え方を間違えてしまうとトラブルにつながる可能性もあるので気を付けていきたい。
保護者に関わらず、伝え方、話し方、電話の取り方など基本的な言葉の言い回し、マナーを学べたらいい。
- * 月齢に沿った離乳食の進め方を知らせてはいるが、家庭での進み具合を基に個々の様子を把握して給食室とも連携を図った。個人的な意見としてはもう少し個々のペースに重点を置き、月齢やその子に合った調理方法などで提供してもらえると食事が楽しくなると思う。
- * 畑を使っただけの栽培、クッキングが少なかった。もっと積極的に行うべきだった。

(人間関係)

- * けんか・トラブルが起きた時にすぐに仲介に入ってしまう事が多い。見守り方や適切な言葉のかけ方が難しい。

(地域・小学校・関係機関との連携)

- * 担当する年齢によって園外で関われる人との機会が違ってくる。
- * 年長以外は地域の方との触れ合う機会が少なかった。散歩時の挨拶や買い物に出かけるなど積極的に関われる様配慮が必要だと思った。
- * 卒園までに育てたいことは具体的にどのようなことなのか、そのための取組みについて共通理解を図りたい。
- * 小学校とのつながりをもっと増やしたい。参観などだけでなく、先生との話し合う機会を増やしたり、関連の研修に積極的に参加していきたい。
- * 学習指導要領を読んで確認していきたい。

(保育指針・保育の計画)

- * 保育指針改定による内容の変化の確認をしっかり把握していきたい。
- * 遊びの中で危ないと思うと必要以上に制限してしまい、自由に遊ばせてあげられないこともあったので、色々な遊びを通してのびのび楽しめるよう指導計画を作成していきたい。

(保育)

- * 特に0,1歳児で長時間保育を受ける子供に対し、寂しい気持ちや不安な気持ちを丁寧に受け止め、寄り添っていく必要があると感じた。自分の好きな遊びを楽しめる空間と、安心して過ごせる環境作りを心掛けていくとともに、家庭的な雰囲気とはどのようなものか考えていきたい。
- * 友達との関わりの多い子は良いが、少ない子や保育士に甘えたりくっついてる子への働きかけが難しい。甘えは受け止め、体を動かし楽しめるようにしていくことはどうしたらよいか。クラス内だけでなく、月に1度全園児で遊ぶ時間を作っていたら、普段関わりが少ない子とも仲良くなれるのではないかと思った。
- * 保育の中にカルタやトランプを取り入れているが、他にどんなものがあるのか(絵合わせカードやすごろく)? 新しいことも取り入れていきたいのでアイデアを聞いてみたい。
- * 子どもに対して「早く」「ダメ」と言ってしまう事が多かったり、声の大きさやトーンも配慮しなければならないと思った。
- * 自分やクラス内でどんな保育をしていきたいかを明確にして目標を持ち、子どもたちが楽しく過ごせる保育をしていきたい。

(保護者支援)

- * 保護者との距離、トラブルや要望などの伝え方が難しい。
- * 保護者との会話の機会が登降園時になるのでゆっくり話ができず、又伝えたいこともうまく伝わっていない事があったので、丁寧にしっかりと内容を伝えたい。
- * 保護者との信頼関係をうまく作っていくにあたって大事にしたいことはどんなことだろうか。
- * 保護者との毎日の小さなやり取りが信頼関係を築き上げていく一歩になると感じた。連絡帳だけでなく口頭でのやり取りを大切にしていきたい。
- * 保護者への「保育に関する指導」(子育て支援)のための特別な努力とはどのようなものなのか、改めて考えてみたい。

*懇談会などクラス全体で話す場があると良い。年度初め・年度終わりの2回が理想だがせめて年度終わりだけでも次年度への連絡事項や進級への期待度を考えて設けたい。

(子どもの人権)

*女の子ピンク・男の子青と分ける事を保育中に見かける。職員の先入観を払拭することが必要だと思う。色で分けるなら子どもに選択してもらう事が良いと思う。

(資質向上)

*保育についての自分の知識や情報が少なかったので、学んだり、研修参加をし、更に質を高めていきたい。

(その他)

*第三者に対しての説明や自分の考えを言葉でしっかり伝えられるようにしたい。

*各マニュアルの確認を定期的に行うべきだった。自分なりのやり方でやっしまわず、園で統一した仕方をしっかり身につけていきたい。(不審者・点検・訓練など)

*各マニュアルについて、毎年のように反省として出てくるので、確認の仕方や、身につけていくための工夫を考え実践していくことが大切だと感じた。

*園にある教材や備品について、日々活用ができるように職員がしっかり把握できる工夫や確認をする必要があると感じた。